

レンプクソウの花と生育地の植生

石沢 進

○レンプクソウの花

花茎の先に黄緑色の小花が5個頭状につくが普通で、先端に1花、側方に4花がつく。各花の構成は花によって差異があるようで、1個体の各花成器官の数をみると次のようである。

小花	花成器官			備考（おしべ状態）
	花弁	おしべ	めしべ	
側方 ①	5	10	4	花糸の基部2箇所癒合
②	5	10	4	10本とも離生
③	5	10	4	花糸の基部1箇所癒合
④	5	10	5	10本とも離生
茎頂	4	8	4	8本とも離生

多くの個体で花成器官の数を調べないと個体による差異は明確ではない。今回調べた1個体でもおしべの花糸の基部が一部癒合している場合もあった。めしべも側方の小花3個は4、1個は5に柱頭部分が分かれていた（写真1・2）。基本的には茎頂の小花は4数性、側方の小花は5数性であるが、個体や小花で常に一定の数と形を保っていないようである。

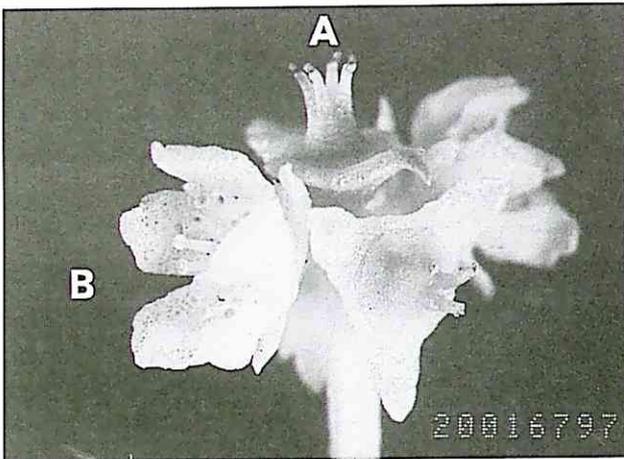


写真1 頭状の花のあつまり A: 茎頂のめしべ4数、
B: 側方のめしべ4数

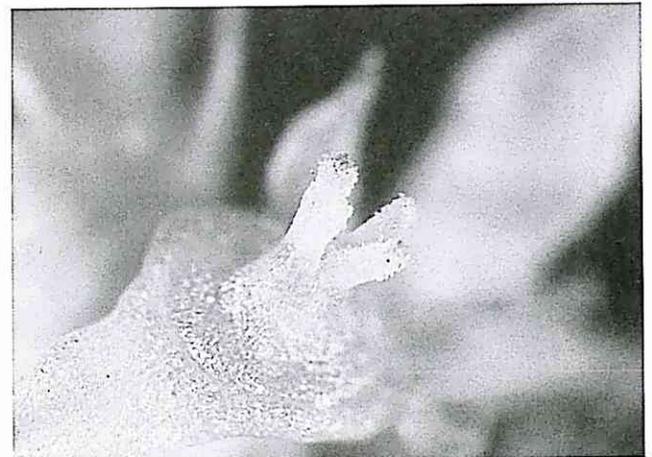


写真2 側方のめしべ5数（左不明瞭であるが3本、
右2本で合計5本）

○レンプクソウの生育地の植生

生育地の植生は、落葉樹の下、スギ林の中、河川沿いの草原の中などであるが詳細については確認していない。東蒲原郡の阿賀野川沿いでは、スギ植林の下や林縁に多く見られるようである。同郡阿賀町西の生育地ではスギ林下で低木層を欠如しているような所である。そこでの共存植物をみると、レンプクソウと同じような春植物や春開花する種が多いようである。夏に同地を訪れていないからかもしれない。

春植物：ミチノクエンゴサク（写真3）、キクザキイチゲ（写真4）、ヒメザゼンソウ（写真5）

春開花する種：セントウソウ（写真6）、タニギキョウ（写真7）、ヤマネコノメソウ*（写真8）、

ホクリクネコノメ*（写真9）、エンレイソウ*（写真10）

（*印の植物は、レンプクソウとほぼ同じ時期に開花）

その他：コンロンソウ（写真11）、オオハナワラビ（写真12）

レンプクソウと共存する植物 (2009 4/4)



写真3 ミチノクエンゴサク



写真4 キクザキイチゲ



写真5 ヒメザゼンソウ

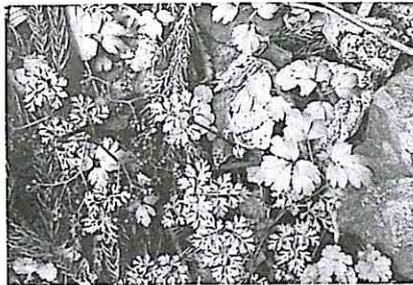


写真6 セントウソウ



写真7 タニギキョウ



写真8 ヤマネコノメソウ

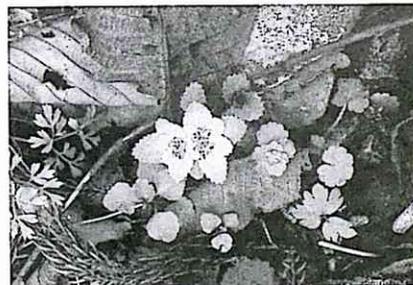


写真9 ホクリクネコノメ



写真10 エンレイソウ



写真11 コンロンソウ



写真12 オオハナワラビ

栗の奇形 三連栗

2008年10月11日の朝 近所への配り物の途上、道端の足元にクリのイガが数個落ちていた。拾ってせなこうじ（一つのイガの中で左右2個の栗の実の間にある不稔の实のこと、薄っぺらで中身の無い皮だけのものを佐渡ではせなこうじという）を取ろうとしたが解れないので裏面を見たら。なんと三個とも癒着しているではないか！せなこうじは、昔農林業で重い荷物を背負って運ぶときにベストのように着るもので、稲わらで肩と背の部分を厚く編みである背当てである。鉋や鋸などを入れるよう袋状になっている。父は昭和20年代稲わらにシナノキの皮を混ぜて作ったこともあったように記憶する。

この栗は新潟県立植物園に保管されています。

中川清太郎